長洲町立長洲小学校　校長便り　№２３

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年７月８日(金)

【独り言】気持ちの余裕

６月、梅酒を仕込んだ。我が家は私の両親を中心に、“歳時記”に記された季節折々の風物を楽しむ。近いところであれば、七夕”だ。私の両親はそれによって季節を感じることが楽しみなようだ。私が梅酒を造り始めたのは１０年ほど前のことだ。当時の勤務校に大きな梅の木があり、毎年、粒の大きな梅が駐車場に落ちていた。何でも、梅酒にはもってこいのサイズだとかで、私がチャレンジしてみることになったのだ。勤務が終了すると梅の木に登る私…。遠くから見れば不審者!!最初に梅酒を造ったのがビギナーズラックなのか、これがとても旨かった！　味を占め、その後も作り続けることになった。しかし、平成２８年度は、忙しさと熊本地震で、梅酒を仕込む気にもならなかった。兎に角、平成２８年度は私にとっては激動の年であり、何かを楽しむというような心の余裕はなかった。平成２９年度から少しずつそういう余裕もできるようになり、以降また歳時記を楽しむようになった。難しいが最近では梅干しにも興味が沸いている。

気持ちの余裕を作ることは、仕事へのモチベーションを上げることに直結する。精神のバランスを積極的にとることも、我々教師の重要な仕事であるような気がしている。要は気持ちの持ちようだ。すなわち、意識改革である。ここ数年、仕事と遊びのバランスは取れていると思うが、家族からは不評だが…。

目指す理想～子ども達の未来のために～

本校は授業改善に取り組んでいます。「これまでの学びのスタイルを、子ども達が将来必要な力を身に付けるための形に変える」ということです。これまでの授業スタイルはどちらかというと、一斉教授型で子ども達にとっては受け身の学習スタイルでした。これを子ども達自身が「自ら学び取る」というスタイルに改革していきます。もちろん、私達は教師ですから、教えるべき事は徹底的に教えますが、子ども達が自ら学ぶ「主体的な学び」は、知識として定着しやすく、生活に活かすことができます。

このような学びが必要な理由としては、１０年先、２０年先の未来、すなわち、子ども達が現役世代として活躍してもらわなければならない社会で必要な力を身に付けさせるためです。今後さらに科学技術が進歩し、近い将来、ＡＩ（人工知能）が多くの仕事を担うようになるという予想がされていて、今ある仕事の半分ほどがＡＩに奪われてしまうという現実が待っています。新たな仕事を探す必要が出てくる訳です。平たい言葉で表現するならば…、「これを仕事にしてはどうかな？」「これは不便だな、この不便さを解消することを私の仕事にしよう！」という具合でしょうか。更に申し上げるならば、企業が求めている人材こそ、創造性・想像性、バイタリティ、コミュニケーション能力、グローバリティ等々であり、そのような力を組織的、段階的に身に付けさせていくのが学校教育なのです。

長洲小学校では、これまで優れた教師が実践してきたことを、教職の経験の深浅に関係なく質の高い学びを保証される状況を目指しています。そのためには、先ず教師との信頼関係を構築することが大切だと考えています。また、新しい学びのスタイルを十分に機能させるためには、教師と保護者の皆様、地域の皆様との連携も必要です。

学力向上は短いスパンで実現するものではありません。しかし、子ども達に関わる全ての人達が、絶対に学力を向上させるという強い意志をもって取り組むことで実現が早まります。

シリーズ「自分を語る」#23

部活動一色だった大学時代ですが、先にも述べた通り、もう一つのめり込んだのはバイクです。私が大学に入学した頃は、空前のバイクブームの時代でした。高校時代からバイクに乗る仲間が多くて、原付に飽き足らず、１６歳になったらすぐに、自動２輪の免許を取る者もいました。丁度、週刊マガジンという雑誌には「バリバリ伝説」というバイク漫画が連載されており、夢中になって読んでいました。実はその単行本も、就職してから古本屋に買いに行き、全巻揃えるという、いわゆる、大人買い”をしてしまいました。この漫画の中で、三重県鈴鹿市にある鈴鹿サーキットの「４時間耐久オートバイレース」、「８時間耐久オートバイレース」が描かれており、それを観に全国からライダーがやってくるという現象も起きていました。私も観に行きたかったのですが、部活の練習があったので行けませんでした。

バイクをどのようにして手に入れたか？もちろんバイトです。当時、親からこう言われていました。「中古の軽自動車だったら買ってやるぞ。」私は、当然「バイクば買おてくれ。」と頼みましたが、無理でした。程なく、アルバイトの日々が始まります。部活があるので、バイトは夜間が多かったですね。家庭教師は４年間を通じてやっていました。変わったバイトは、「劇場の宣伝車の運転」なんてのもありました。そこで働くおばちゃんたちと仲良くなって、煙草を貰ったりしていました。あと、英会話スクールのポスターを電柱に貼って歩くというバイトもしました。貼る時の姿から、私達はこのバイトを「セミ」と言っていました。市議会議員の選挙のお手伝いもしたことがあります。これは時間が限られているし、しかも高収入が期待できるので、毎年選挙があればいいなぁ、なんて思ったりしていました。そうこうしていると、両親から一本電話があり「幾ら貯まったか？」と言われ、ぼちぼちと答えました。すると「援助してやろか。」と言われ、すぐに飛びつきました。とうとう、２年の夏、念願のバイクがやってきました。“Honda CBR400F”と言って分かる人は、私と同世代ですね。

バイクで色々なところに行きました。いわゆるツーリングです。初ツーリングは、北海道でした。部活の仲間と「とにかく下道（高速に乗らずに）で、日本最北端（宗谷岬）と最東端（納沙布岬）に行こう！」という目標でスタートしました。さすがに疲れましたね、この時は。そして、３年時にはフェリーを使って北海道に上陸、前の年に楽しめなかった景色を楽しみながら走りました。この２回のツーリングは、親戚宅に泊まる以外は全て、野宿でした。最長で１０日間風呂に入らなかったことがあります。公園や橋の下で野宿するのです。公園には水道もあるので、よく水浴びをしました。橋の下は雨露が凌げるので心地よかったですね。３年次の冬は四国を８の字に一周するツーリングもしました。このツーリングは過酷でしたね。厳冬の四国山地では、凍え死ぬかと思いました。体を温めるためにウィスキーを飲んだりしていましたが、実はそれが逆に危険だという認識を持つのは、社会人になってからでした。

（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）